

2024 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [中矢 忠孝]

学年・組・番号 [2 年 I 組 13 番]

研究課題: イスラエル-ハマス紛争がイスラエル市民の生活に与えた
影響について。

(英文) The Impact of the Israel-Hamas Conflict on the Lives of Israeli Citizens.

研究概要 :

2023 年 10 月 7 日より始まった紛争は日本のみならず世界に衝撃を与えた。またウクライナ戦争の最中であったため国際情勢はより緊迫した。現在日本が位置する東アジアにおいても中国の海洋進出により紛争が発生するリスクが高まりつつある。しかし、日本は幸にして第二次世界大戦後より一度も戦争や紛争に巻き込まれたことがない。つまり紛争や戦争が遠くの国の出来事で他人事のように感じている人々が日本には多いのではないのだろうか。またマスメディアは紛争や戦争を報道する際は主に戦場となっている地域に焦点を当てており、国民の生活にどのような影響が出ているのかを焦点には当てていないことが多い。そこで今回イスラエルの滞在を通じて紛争当事国の市民生活にどのような影響が出ているのかを調査する。

研究成果 :

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200~400 字で記入してください)

結果としては紛争はイスラエル市民の生活にはあまり影響を与えていなかった。物価高や輸入製品の値上げ、公共料金の値上げは見られたが、市民の生活は紛争勃発後も全くと言っていいほど変わっていないということを現地の人々との交流を通じて結論として出すことができた。残念ながら、2 週間という短い滞在では残念ながら表面的な部分しか調査することができなかった。また治安の悪化でパレスチナ側に訪れることができなかった。しかし今回実際に紛争当事国を訪れ自分自身で調査し、知見を深められたということは大変意義のあるものだとは私は考える。

研究者 : (以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 中矢忠孝

担当教諭 中山 匡

(受給額 : 1,5 千円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真 :

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



嘆きの壁



街中に書かれた人質の写真とスローガン



テルアビブ美術館前の広場のモニュメント

連帯を表す黄色のリボンと実際に人質たちが幽閉されているトンネルを再現したモニュメントが展示されていた。